

## 「大阪スマートシティ戦略Ver.1.0（案）」に対する府民意見等と大阪府の考え方

【募集期間】 令和2年2月21日（金曜日）から令和2年3月22日（日曜日）まで

【募集方法】 「大阪府パブリックコメント手続実施要綱」に基づき、電子申請、郵便、ファクシミリのいずれかによりご意見等を提出いただく方法で募集しました。

【意見件数】 6名（うち団体2）の方から、27件のご意見をいただきました。いただいたご意見について大阪府の考え方は次のとおりです。

親番号	子番号	頁	章	ご意見等の趣旨・内容	府の考え方
1	1			<p>○ スマートシティを目指す中で、カジノ誘致は、安心・安全を脅かし、ギャンブル依存症に伴う貧困や家庭崩壊となり、カジノは全くスマートではないと思いました。</p> <p>スマートシティを目指すことや万博の位置づけは分かったが、カジノの位置づけが全く分からなかった。</p>	<p>○ 今後のスマートシティ戦略推進の参考にさせていただきます。</p>
2	1			<p>○ 我々はスマホアプリによる地域ICTプラットフォームサービスを地域に普及及び運営している法人です。情報共有から災害に強いまちづくりを作り、地域コミュニティから協働まちづくりに寄与したアプリです。身近な組織として自治会又は町内会組織の加入率低下が全国的に懸念されています。</p> <p>その背景には、少子高齢化はどの地域でもありますが、地域活動への若い世代の関心の低さと自治会又は町内会活動への業務量の増加による担い手不足といった地域活動へは自由の敵のように業務が増大しています。</p> <p>我々はそのような地域組織の担い手となるICTを生み出し若い世代への関心を高めるための情報共有から市民と自治体と地域事業者が三位一体型ポータルサイトとして社会課題の解決を支えるICTとして運営しています。</p> <p>本システムにおいては現在、社会福祉協議会管轄の福祉委員会の連絡網として活用され、別自治体においても自治会運営担い手として現在試験運用をされています。</p> <p>我々も地域運営組織として持続できる活動ではありますが、ICTを活用したまちづくりとして既に他府県からの活動を実施しています。大阪府における現在運用している組織団体を大阪モデルとして、大阪はなぜスマートシティをめざすために寄与できないかといった意見・提言です。詳しくは当法人HPをご覧ください。</p>	<p>○ 今後のスマートシティ戦略推進の参考にさせていただきます。</p>
3	1			<p>○ 高齢者にとって、便利になったと思わせてもらえるようなまちにしてもらいたい。携帯電話は孫との電話にだけ使っている人がまわりには多い。インターネットを使ったら便利になるとは思うが、家にスマートホンがないところはどうか。町会の掲示板とか、福祉会館とかに、みんなが使えるようなパソコンとかスマートホンがあればいいのかもしれないが。ぜひ考えてほしい。</p>	<p>○ 今後のスマートシティ戦略推進の参考にさせていただきます。</p>
4	1 から 3	13 から 15 20 から 21	第4章 何に取り組むか 【WHAT】	<p>○ p13からp15のICT化推進について、進めていくこと自体反対はしないが、行政のサービスで特に神経質にならないといけない事案の、不正アクセスなど懸念を覚える。</p> <p>○ p20のキャッシュレスについて、高齢者や子どもが取り残されないように、配慮を求める。</p> <p>○ p21の防災ハザードマップについて、私の住む地域で、私は見たことはない。今一度市町村全般でハザードマップを作成するか、各地域単位で作成してもらいたい。</p>	<p>○ 今後のスマートシティ戦略推進の参考にさせていただきます。なお、防災ハザードマップにつきましては所管部局にも伝えるように致します。</p>
5	1	18	第4章 何に取り組むか 【WHAT】	<p>○ 18ページ、データヘルスについて 禁煙支援アプリの活用も考えに入れて欲しいと思います。禁煙外来は5回の受診を必要とすることが障壁であり、また受診機会の間に挫折しないよう細やかな心理的なサポートも必要とするようです。これらを克服するにはいつでもどこでも利用できるアプリがうってつけです。</p> <p>民間では禁煙成功率83%を誇る実例があります（参考URL） アスマイルにぜひ組み込んで欲しいと思います。</p>	<p>○ 今後のスマートシティ戦略推進の参考にさせていただきます。なお、内容につきましてはアスマイル所管部局にも伝えるように致します。</p>

親番号	子番号	頁	章	ご意見等の趣旨・内容	府の考え方
	1 から 3	3 から 4	第1章 基本的な考え方	<p>○「大阪スマートシティ戦略 Ver.1.0（案）～e O S A K Aをめざして」（以下、「戦略」）が目指す方向性は、当経済団体が大阪府、大阪市へ提出した提言と概ね同じであり、2025年大阪・関西万博の開催を控えたこの時期に、戦略を取りまとめられたことは時宜を得ている。基本姿勢として掲げられた、①生活の質（QoL）の向上、②民間との協業、③社会実装という3点に基づき、実践的な取組を推進するためには、行政と経済界が一体となった取り組みが不可欠であり、引き続き、当経済団体との連携・協働を強化されたい。</p> <p>○戦略が目的に掲げる、2025年大阪・関西万博に向けた大胆な規制緩和等による最先端の取組を推進するためには、「スーパーシティ」構想等を活用すべきである。「スーパーシティ構想」の実現に向けた国家戦略特区法改正案は既に閣議決定され、今国会で法案が成立すれば、今夏にも地域指定の公募が開始される。全国でスーパーシティ指定に向けた取り組みが加速する中、大阪でも公募への対応を早急に具体化する必要がある。スーパーシティでは、様々なデータを分野横断的に収集・整理し提供するデータ連携基盤を軸に、解決すべき地域課題を明確にした上で、生活全般にまたがる領域で、住民福祉・利便向上を図るサービスを提供する提案が求められる。大阪においては、うめきた（2期）と夢洲をはじめとするフィールドにおける街づくりが必要とされる地域課題に焦点を置き、戦略で示される領域を組み合わせ、いかに住民の生活の質（QoL）を向上させるのか、民間企業からのアイデア、技術の提示も募集して、早急に具体的なユースケースを盛り込んだ提案を取りまとめられたい。</p> <p>○戦略においては、住民の生活の質（QoL）を向上させるために、企業が持つ先端技術やアイデアと連携する姿勢が示されている。その期待に応える厚い産業集積を有するのが大阪の強みであり、こうした連携は一層強化していく必要があるが、一方で、人手不足や事業承継を喫緊の経営課題として、生産性向上・経営力強化に取り組む企業も多い。こうした経営課題を抱える企業も大阪の地域、産業を支える重要な企業市民の一員であることから、戦略においては、「企業市民の経営の質の向上」という観点も盛り込まれたい。</p>	<p>○今後のスマートシティ戦略推進の参考にさせていただきます。また、経済団体とは、引き続き、連携・協働に努めてまいります。</p> <p>○スーパーシティ構想については、スマートシティ戦略を踏まえ、取り組みを進めてまいります。</p> <p>○「企業市民の経営の質の向上」という観点につきましては、スマートシティの基盤の確立に向けて企業DXの推進は必要であると位置付けております。</p>
	4 から 5	5 から 7	第2章 大阪はなぜスマートシティをめざすのか 【WHY】	<p>○大阪は、世界的に見ても多くの課題が先行して顕在化している都市だが、これを敢えて機会と捉え、都市課題解決の先導役としての存在感を示すことができれば、都市間競争での優位な地位を築くことができる。そのためには、世界の先進事例から、いわば「ええとこどり」をすることも重要だが、それと同時に、自らがファースト・ペンギンとなり、小さな事例からでも、早期に具体的な取組に着手することも肝要。層の厚い課題解決プレーヤーの存在をいかし、ファースト・ペンギンとして新たな事例を切り開いていくことで、「大阪モデル」のスマートシティを実現されたい。</p> <p>○なお、課題解決プレーヤーとの連携事例として、実証フィールドの提供が示されているが、これは大阪府、大阪市と当経済団体との取り組みであり、戦略においてもその担い手を明記されたい。</p>	<p>○今後のスマートシティ戦略推進の参考にさせていただきます。</p> <p>○ご意見を踏まえ、6ページ「2 課題を解決するプレーヤーの存在」につきましては 8行目に「実証事業推進チーム大阪」等の文言を追加致します。</p>

親番号	子番号	頁	章	ご意見等の趣旨・内容	府の考え方
	6 から 8	8 から 11	第3章 どのように取り 組むか 【HOW】	<p>○ 地域課題を抱える市町村と、課題解決できる技術・サービスを有する企業とのマッチングは、課題提示とソリューション提案を双方向から行えるプラットフォームがあれば、効率的に実施できる。当経済団体は、そうしたプラットフォームを多数運営しており、例えば、<b>DX (Digital transformation、デジタル変革)</b> 分野、健康分野において、それぞれのテーマでソリューション提案が可能な企業が数多く参画している。当経済団体は、こうしたプラットフォームを効果的に運営するノウハウも有していることから、市町村と企業とのマッチング促進においても連携・協働を強化されたい。</p> <p>○ 大阪スマートシティ戦略会議では、<b>GovTech大阪</b>（大阪市町村スマートシティ推進連絡会議）の下に、テーマ別のワーキンググループを設け、地域課題を抱える市町村と、課題解決できる企業とのマッチングを先行的に実施している。こうしたワーキンググループへの参加を希望する企業は多数存在することから、マッチング候補としては、幅広い企業を対象とされたい。</p> <p>○ 戦略の取組成果について、<b>KPI (Key Performance Indicator、重要業績評価指標)</b>を設定することは重要。ただ、指標の設定に際しては、住民が実感できる形での生活の質（<b>QoL</b>）の向上を目指すという戦略の趣旨に沿って、住民が具体的な効果や効用を実感できるアウトカム指標を設定するとともに、住民の声を評価に反映させる仕組みを構築されたい。加えて、<b>KPI</b>の達成には具体的な施策への十分な予算措置が不可欠となる。大阪府市や市町村は、戦略実現に向けた予算を重点的に配分し、<b>KPI</b>達成を目指されたい。</p>	<p>○ 今後のスマートシティ戦略推進の参考にさせていただきます。また、経済団体とは、引き続き、連携・協働に努めてまいります。</p> <p>○ <b>KPI</b>につきましては、今後スマートシティ戦略のバージョンアップの際に検討していくこととしています。</p>

親番号	子番号	頁	章	ご意見等の趣旨・内容	府の考え方
6	9 から 14	12 から 25	第4章 何に取り組むか 【WHAT】	<p>○ 先端技術を活用して「住民の行動変容」を支援する仕組みを「住民モード」として構築する視点は重要であり、大いに賛同するが、これを持続可能にするためには、住民のニーズを満たしつつ、先端技術を提供する企業のビジネスも成立させる必要がある。こうしたサービスのビジネス化には、異業種連携で新たな価値を創出するためのコーディネート力が重要になり、民間の意見も踏まえた仕組みづくりが欠かせないことから、当経済団体をはじめとする経済団体との意見交換を緊密に行われたい。</p> <p>■スマートモビリティ</p> <p>○ スマートモビリティの推進にあたっては、当経済団体のMaaSのフォーラムとの連携・協働を強化し、地域課題を有する市町村からの課題提示と、課題解決できる技術・サービスを有する企業からのソリューション提案を双方向から行うことで、両者のマッチングを促進されたい。MaaSについては、全国でも積極的に推進する地域が増加しているが、2025年大阪・関西万博の開催を控える大阪への関心は高く、特に、大都市型MaaSの展開には企業からの大きな期待が寄せられている。大阪府市においては、こうした企業の意向も踏まえ、大都市型MaaSの構築に向けた方針、予算措置も含めた実行計画の策定を急がれたい。</p> <p>■データヘルス</p> <p>○ 健康・医療分野の課題は、住民の生活の質（QoL）を直接左右するものであり、データヘルスはこの重要な課題解決に不可欠なツールである。医療と連携したデータヘルスが実現すれば、認知症やフレイル等の予防から慢性疾患の適切な管理、重症化予防、発作性疾患の救急対応、災害時の持続的な医療サービスの提供、感染症の拡大抑制など、健康づくりから診断、治療、リハビリ、予後管理、再発予防がシームレスにつながり、住民の健康意識の変革、利便性の向上が図られる。戦略においては、まず、こうした住民の健康長寿実現に資するビジョン全体を描いた上で、着手しやすいモデルケースづくりから取り組みを始める、という方針を示すべき。また、データヘルスについては、健康無関心層にも働きかけて行動変容を促し、健康寿命延伸を実現するツールとして、推進していくことも重要になる。具体的にデータヘルスの取り組みを推進する際には、企業等から地域課題を有する市町村へのソリューション提案も効果的であることから、様々なソリューション提案が期待される当経済団体のネットワークとの連携・協働を検討されたい。</p> <p>■教育</p> <p>○ 学校に焦点をあてたアプローチも極めて重要だが、同時に、データサイエンス（AIを含む）、コンピュータサイエンスを活用した研究、ビジネス創出を担う人材の育成も喫緊の課題である。当経済団体は、大阪府市新大学の設立に際して提言したところだが、戦略にも同提言の趣旨を盛り込まれたい。</p> <p>■必要となるデータのオープン化、データ活用プラットフォーム</p> <p>○ 戦略では、まずは大阪府市や市町村が有する公共データのオープン化を推進したうえで、それらを大阪府が構築する大阪府市町村データ活用プラットフォームに蓄積していく方針が示されている。地域課題の解決、住民の生活の質（QoL）の向上を実現するためには、同プラットフォームのデータと、企業等有するデータとの連携が不可欠であることから、同プラットフォームの外部からの接続方法はオープン化されたい。また、プラットフォームを完成版として固定化し、同じ機能・サービスを提供し続けるのではなく、企業等の継続的な参画により、経年的に更新・発展する仕組みを構築されたい。</p> <p>■5G</p> <p>○ 5Gについては、事業者のニーズに応じて大阪府市が保有する施設の利活用を検討する方針が示されている。大阪城公園や万博記念公園など、大阪を象徴するエリア・施設は、先端技術を活用した実証事業のニーズが高いことから、優先的にネットワーク環境の充実を図られたい。</p>	<p>○ 今後のスマートシティ戦略推進の参考にさせていただきます。また、経済団体とは、引き続き、連携・協働に努めてまいります。</p> <p>○ データサイエンス等の人材育成につきましては、「第6章 1 各主体の役割（6）大学・研究機関等」にて、新大学の役割を記載しております。</p>

親番号	子番号	頁	章	ご意見等の趣旨・内容	府の考え方
	15 から 16	26 から 28	第5章 府域での展開イ メージ 【WHERE】	<p>○ 都心部・市街地においては、エリア例として、うめきた、夢洲、森之宮、新大阪、北大阪健康医療都市「健都」が示されているが、インバウンドビジネス推進の機運が高まるグレートミナミ・シティ（難波、新今宮、阿倍野・天王寺、上本町）も対象に加えられる。</p> <p>○ 大阪府等が保有する施設やスペースを先端技術の実証フィールドとして提供する際には、大阪府、大阪市と当経済団体が行う取組みのスキームを活用されたい。戦略では、「技術実験」に留まらず、「社会実装」のための取組を重視する方針が示されていることから、より「社会実装」に近いサービス実証についても、実証フィールド提供の対象に加えるとともに、実施した実証実験については、大阪府や市町村自らが積極的に導入を検討することで、その「社会実装」を支援されたい。</p>	<p>○ 今後のスマートシティ戦略推進の参考にさせていただきます。</p> <p>○ 「第1章 3 スマートシティの対象の考え方」にもありますとおり、スマートシティ戦略の推進にあたっては、具体的な課題に応じて一定のエリア単位など、最適な規模で先端技術を活用した取組を進めるとしております。</p>
	17 から 19	29 から 31	第6章 誰が取り組むか 【WHO】	<p>○ 大阪府、市町村においては、課題解決できる技術・サービスを有する企業とともに実証実験を積極的に推進することが求められるが、実施した実証実験については、大阪府や市町村自らが積極的に導入を検討することで、その「社会実装」を支援されたい。</p> <p>○ 戦略の推進基盤として、今後、コンソーシアムの構築を目指す方針が示されているが、GovTech大阪（大阪市町村スマートシティ推進連絡会議）、シビックテック、企業・経済団体、大学・研究機関といった多様な主体が集うコンソーシアムにおいて、その運営を担う主体は極めて重要になる。特に、課題解決に資する技術・サービスを有する企業が多数存在する大阪においては、こうした企業の知見、ノウハウを十分にいかす視点が不可欠であり、当経済団体をはじめとする経済団体との意見交換を緊密に行われたい。</p> <p>○ 戦略を実践していくためには、大阪府における実行体制が重要になる。大阪府スマートシティ戦略部、大阪市ICT戦略室が司令塔となって関係部局に情報発信するとともに、関係部局からも実務に根差した課題が司令塔に集まる仕組みが不可欠。両者の連携を密にするとともに、情報の双方向性を確保されたい。</p>	<p>○ 今後のスマートシティ戦略推進の参考にさせていただきます。また、経済団体とは、引き続き、連携・協働に努めてまいります。</p>
	20	32 から 34	第7章 スケジュール	<p>○ 大阪スマートシティ戦略会議の開催時には、検討分野に応じた民間企業等が招へいされているが、当経済団体をはじめとする経済団体は、地域の幅広い企業等に日常的に接する持続的な担い手であることから、同会議への招へいを検討されたい。</p>	<p>○ 今後の大阪スマートシティ戦略会議運営の参考にさせていただきます。</p>